

令和 8 年 雫石町議会 9 月定例会 一般質問通告一覧表

【No. 1】

質問順	通告議員名	質問事項	質問の要旨	質問の相手
1	西田 征洋 議員	I 林野庁が町内に埋設したダイオキシンを含んだ除草剤について	1 埋設箇所を調査した形跡があるが、町に報告はあったか。 2 佐賀県吉野ヶ里町の埋設地の無害化処理が終了したが、他の埋設箇所の処理に進展はあったか。 3 町内の埋設地の無害化処理を実現させるため、町の方針を伺う。	【町長】
		II 加齢性難聴者への補聴器購入支援について	本年 6 月定例会でもこの問題を取り上げたが、町独自の助成には否定的で、国の動向も注視していくという回答であった。現在でもその主旨に変更はないか伺う。	【町長】
		III 農家の物価高騰対策への具体的な対応について	長期にわたり物価高騰の高止まりが続いている一方で、米の価格が急落して農家の経済的損失は大きいものがある。新米も低い価格で推移するのではないかと心配する声もあることから、次の点について伺う。 1 農家の窮状に対し、どのように対応するのか。 2 農家と一体となって、国や県に要望することや町独自の支援をどのように考えているか。	【町長】
		IV 中学校体育館へのエアコン設置について	再三、一般質問などで中学校体育館へのエアコン設置について質問しているが、設置する考えはないか。	【教育長】

令和8年雫石町議会9月定例会 一般質問通告一覧表

【No. 2】

質問順	通告議員名	質問事項	質問の要旨	質問の相手
2	畠山 操 議員	I プレミアム商品券について	物価高騰の影響を受けている生活者支援及び事業者支援による地域経済の活性化と地元消費の促進を図るという目的で、プレミアム付きの商品券を発行する事業が、数年継続して行われている。そこで、次の点について伺う。 1 町内消費がどれだけ増えたのか、新たな消費が生まれたのか、それとも本来予定していた買い物が商品券に置き換わっただけなのかなど、客観的な検証は行っているか。 2 商品券を利用できる店舗や業種によって利用状況に差が生じ、恩恵を受ける事業者が偏っている可能性もあるが、店舗ごとの利用状況や業種別の効果を分析しているか。 3 商品券は数量限定・先着順で販売されるため、高齢者や交通手段のない方、仕事などで販売日に購入を希望しても購入できない町民が生じる可能性がある。このことを認識し、改善策を検討しているか。 4 今回の3,000円のプレミアムを受け取るためには、10,000円を用意する必要があるが、低所得世帯には購入しにくい可能性がある。物価高騰対策としては逆進的ではないか。 5 購入者を町民限定としているが、町内に就労している人にまで拡大する考えはないか。 6 先行販売は昨年の上限1人4セットから1セットに変更し、通常販売は1月臨時会で、1人1セットと答弁しているが、実際は5セットまで購入できるようにした理由は何か。	【町長】
		II 役場内のカスタマーハラスメント対策について	本年10月1日より改正労働施策総合推進法が施行され、すべての企業や事業主に対してカスタマーハラスメント対策が法的義務となる。そこで、次の点について伺う。 1 町は、法の施行に向けてカスタマーハラスメントの定義・判断基準などガイドラインの整備はしているか。 2 カスタマーハラスメントによって、警察や弁護士などに相談した事例はあるか。 3 職員が被害を受けた場合、相談窓口など、組織で対応する仕組みはあるか。	【町長】

令和 8 年 栗石町議会 9 月定例会 一般質問通告一覧表

【No. 3】

質問順	通告議員名	質問事項	質問の要旨	質問の相手
3	高橋 公史 議員	I 広報紙等配布のあり方について	町の広報紙や各種お知らせ、回覧文書は、防災・福祉・子育て・健康・地域行事など町民生活に関わる大切な情報を届ける手段であり、長年その配布を支えてきた区長・班長・地域役員の方々に深く敬意を表する。一方で、高齢化が進む中、夏の暑さや冬の雪道、特にもシルバーカー等を利用される方にとっては、近所をまわること自体が難しく、大きな負担となっている。同居する家族が代わりに担う例や、町外の家族が休日に代行する例もある。地域からは近隣の助け合いにも限界があるといった声が上がっている。そこで、次の点について伺う。 1 町から各世帯へ配布される広報紙、各種文書、回覧物は、月におおむね何回程度配布されているか。 2 配布や回覧を担う地域役員の年齢層について、町としてどのように把握しているか。 3 広報紙や配布資料の印刷・仕分け・配送等にかかる年間経費は、全体でどの程度か。 4 配布された広報紙や回覧文書が実際にどの程度読まれているか把握しているか。 5 回覧の回し方や配布方法を工夫している行政区・班の事例を把握しているか。 6 区長・班長・地域役員から配布に関する負担感や困りごとについて、これまで実態調査や意見交換、情報収集を行ってきたか。行っている場合、頻度と方法はどうか。 7 配布方法の見直しや負担軽減に向けた支援策（IT活用、配布ルートの見直し、報酬の見直し等）を検討する考えはあるか。 8 区長・班長のなり手不足が懸念される中、持続可能な配布体制の構築についてはどうか。	【町長】

令和8年雫石町議会9月定例会 一般質問通告一覧表

【No. 4】

質問順	通告議員名	質問事項	質問の要旨	質問の相手
4	山崎 留美子 議員	I 町立図書館のあり方について	町立図書館は開館して昨年40年を迎えたが、ブックスタートを始め、季節ごとの行事や記念日に関する図書の推薦メッセージや分類別、また子ども向け図書の展示にポップを工夫するなど、様々な仕掛けを職員自ら工夫し努力が感じられる。平均貸出数も一人7冊と増えており賑わいも感じられる。そこで、次の点について伺う。 1 自治体における公立図書館の床面積は主に文部科学省の「公立図書館の設置」に定める基準があると伺っている。町立図書館の床面積は564㎡であるが、人口約15,000人で考えるとおよそ1,350㎡が理想とある。この差をどう捉えているか。 2 図書館に利用者登録している方は現在9,012人いる。人口からの平均蔵書数の理想が11万冊と言われているが、蔵書数は5万9千冊と少なく、館内の狭さも冊数を増やせない要因となっているのではないか。 3 閉架書庫には9千冊あるが、床が重さに適合してないのでこれ以上は保管できないと聞いている。対策は考えているか。 4 児童図書コーナーは工夫されてはいるが、仕切りが本棚だけで親子で来館した場合、読み聞かせに苦慮しているケースを見かける。どう考えているか。	【教育長】
		II 再生可能エネルギー事業の適正な促進に関する条例の見直しについて	町は、再生可能エネルギー事業の適正な促進に関する条例の改正を令和6年6月に行ない、事業者区分の明確化や設置を認めない禁止区域及び抑制区域の指定も明らかにし、地域と再生可能エネルギーとの共生を目指す姿勢を打ち出した。しかし、全国的に見るとメガソーラー発電計画に対しては、住民からの反対や中止を求める運動も目立っている。七ツ森・丸谷地地区でもメガソーラー事業計画に異議を唱える住民も多く、マスコミの報道もあった。直近では陽和郷での計画も上がっていることから、条例の見直しについて考えを伺う。 1 陽和郷でのメガソーラー発電計画は、事業予定地が含まれる行政区や、隣接する全世帯に説明会の開催は回覧板を通して周知されたようだが、知らない方が多かった。予定事業者が主催する説明会であるが、排水経路に下流地域等ある場合、事業区域から影響を受ける恐れのある住民世帯にも周知する等の指導を行う考えはないか。 2 メガソーラー発電計画は、事業者による届出制であるが、雫石町は岩手山裾野にあり景観保全地区も多く存在する。伐採によるトラブルなど防ぐために、区域によっては許可制をとることを考えないか。	【町長】

令和 8 年雫石町議会 9 月定例会 一般質問通告一覧表

【No. 5】

質問順	通告議員名	質問事項	質問の要旨	質問の相手
5	岩持 清美 議員	I 地熱発電について	本町には多くの温泉地があり、葛根田地熱発電所がある葛根田地域をはじめとして多くの地熱量があると思われる。独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構（J O G M E C）などの調査は長年行われていることから、次の点について伺う。 1 令和 3 年から令和 6 年まで J O G M E C が行った網張・丸森地域の調査結果と現状はどうか。 2 大松倉山の事業化への取り組みはどうか。 3 町内の地熱発電施設は、町税収入にどのような影響を与えているか。	【町長】
		II 入札積算ミスについて	本年 3 回目になる入札積算ミスが発生した際、町では、業務発注時のチェックリストの作成を急いでいると説明したが、再発防止策について伺う。	【町長】

令和 8 年 雫石町議会 9 月定例会 一般質問通告一覧表

【No. 6】

質問順	通告議員名	質問事項	質問の要旨	質問の相手
6	堂前 義信 議員	I 農業振興の取り組みについて	少子高齢化の進展により、農業者の高齢化や担い手不足が進んでおり、遊休農地等が増加している。主要作物である稲作については、昨年のいわゆる「令和の米騒動」による米価高騰から一転して、コメ余りの様相を呈しており、最近発表された各地 J A の米概算金は昨年度より 4 割程度の大幅減となっている。当町でも同様になるものと予想され、農業収入の大幅な減少が見込まれる。さらに、人件費や資材費等の生産費高騰は今後も継続すると予想されており、農業経営は非常に厳しい状況になるものと思われる。国の政策も二転三転し、農業経営の不安定化は一層進み、高齢化や担い手不足もあり、農業経営継続に不安を抱いて離農する農家が増加するものと思われる。そこで、次の点について伺う。 1 令和 7 年 3 月に策定された地域計画から、令和 12 年度の地域の中心経営体数、遊休農地面積、農業者の平均年齢はどうか。 2 新規就農支援及び親元新規就農支援について、支援状況と成果はどうか。 3 農地集約と集積はどうか。 4 農業所得増加に係る施策及び支援はどうか。 5 農業者や労働力の確保に向けた施策はどうか。	【町長】
		II 持続可能な地域社会実現の取り組みについて	我が国の人口減少と少子高齢化は止まらず、国内の自治体では人口減少対策として独自の多様な施策を行っているが、その傾向は変わらず、むしろ早まっている状況である。当町でも 2040 年には、現在より 4 千人程少なくなり、約 1 万人の人口になると推計されている。このような状況から、公共施設の集約や解体、予算の一層の効率化等持続可能な地域社会を実現するため「スマートシュリンク」（賢く縮む）の考え方に基づいて施策を実践する自治体が増えてきている。そこで、次の点について伺う。 1 町内の公共施設のうち、耐用年数を超えて利用されている施設はいくつあるか。 2 町内の公共施設の年間の維持管理費用はいくらか。 3 持続可能な地域社会を構築するため、「スマートシュリンク」についてどう考えるか。早期に取り組む考えはないか。	【町長】

令和8年雫石町議会9月定例会 一般質問通告一覧表

【No. 7】

質問順	通告議員名	質問事項	質問の要旨	質問の相手
	堂前 義信 議員	Ⅲ 小中学校生のゲーム依存に対する取り組みについて	昨年度の国立病院機構調査によると、ゲームのやり過ぎで日常生活が困難になる「ゲーム行動症」と疑われる人が、10～29歳の若年層で、平成30年度調査時より5%上昇し、10.3%にのぼることが分かった。「ゲーム行動症」になると、健康、学業、仕事に重大な支障が生じ、このような状態が一定期間続くと、起床や食事ができなくなったり、ゲームを制限されると暴力をふるったりする等、社会的に問題を起こすようになるという。そこで、次の点について伺う。 1 町内小中学生のゲーム機の所有率はどうか。 2 町内小中学生の1日のゲーム時間はどうか。 3 町内小中学生で「ゲーム行動症」と思われる事例はあるか。 4 「ゲーム行動症」を未然に防ぐため、学校や家庭、地域が連携し、予防的介入を進めていくべきと思うがどうか。	【教育長】

令和8年雫石町議会9月定例会 一般質問通告一覧表

【No. 8】

質問順	通告議員名	質問事項	質問の要旨	質問の相手
7	金子 一男 議員	I 農業振興について	町の基幹産業である農業は、就農人口の減少や深刻な高齢化に加え、原油・肥料・飼料代などの生産資材の高騰、さらには地球温暖化による記録的な猛暑や水不足など、町の農業者も窮地に立たされている。そこで、次の点について伺う。 1 遊休農地や手放したい農地については、町と農業委員会、農地中間管理機構等の関係機関が連携を密にして、地域計画で位置づけられる担い手に引き受けてもらう取り組みをしていると思うが、状況はどうか。 2 耕作条件が悪く、再生しても継続して耕作することが困難と判断された農地については、国の指示により非農地として農地から除外すると思うが、基本的に遊休農地の解消に結びついていないと感じているが、どう捉えているか。 3 令和7年4月に閣議決定された食料・農業・農村基本計画に基づき、「令和9年度からの水田政策の見直し」が取りまとめられた。町の考えはどうか。 4 コメ余りなどを受けて、米価の値下がり・下落傾向に向かうと予想される。一方で、生産コストの高止まりにより農家の経営圧迫が見込まれるが、対策や支援はどうか。 5 大規模圃場整備や農地の集積を進める一方で地域の中心経営体の確保や若手農業者の育成など、受け手側に負担が集中するが、負担軽減の対策や支援はどうか。 6 高収益作物の導入は国の補助事業（農業競争力強化基盤整備事業など）の実質的な採択・評価の重要要件となっている。町に適した高収益作物の考えと導入に対する支援はどうか。	【町長】

令和 8 年雫石町議会 9 月定例会 一般質問通告一覧表

【No. 9】

質問順	通告議員名	質問事項	質問の要旨	質問の相手
8	杉澤 敏明 議員	I 雫石診療所の 改変について	町では、雫石診療所の入院事業を休止する方向で進めている。そこで、次の点について伺う。 1 なぜ急に入院事業を休止する方向性を打ち出したか。 2 入院事業を休止した場合の町民への影響をどう分析しているか。 3 入院事業を休止すればどのような財政上の効果が見込まれているのか。 4 特別会計から企業会計への移行準備中であったが、これは必要がなくなるのではないか。	【町長】
		II 沼返の町有地 14ヘクタール の活用等につ いて	沼返の町有地14ヘクタールの活用は、落葉果樹農業研究所の跡地を取得した時から長きにわたり当町の課題となってきた。令和3年度に町は、エネルギープロダクト株式会社と地域活性化に係る包括連携協定を締結し、経済性の高い有機農業と職住一体型による移住者の受け入れ機能を持たせた活用を進めることにしていた。そこで、次の点について伺う。 1 現在までの取組状況はどうなっているか。 2 沼返の町有地14ヘクタールの活用のため整備した町道丸谷地4号線が小岩井農牧株式会社の道路と接続し、県道網張温泉線につながっている。この道路を町道にすることについての取組み状況はどうなっているか。	【町長】
		III 矢櫃地区の水 道整備につい て	矢櫃地区への町水道の整備については、令和元年12月2日に矢櫃地区水道整備促進協議会から全20世帯の署名付きの陳情書が猿子町長あてに提出されている。また、令和元年12月定例会において、この件について一般質問している。この時の答弁は、第三次雫石町総合計画に盛り込み、時間はかかるが取り組んでいく。国の支援体制等々も訴えていくとのことであった。第三次雫石町総合計画後期計画には、「水道の未普及地域に対しては、整備のあり方を検討する必要があります。」とある。矢櫃地区の水道整備については、こうした経緯をたどってきているが、どのような取り組みをしてきたのか伺う。	【町長】